

写真集「世界氷河紀行」

熊本大学名誉教授・田村 実 著

(A5 横判：オールカラー118 ページ；1500 円)

渡 辺 一 徳

標記の写真集が11月18日に出版された。この写真集は、山が好きで地質学を専攻された著者自身が、在職中および退職後に撮られた世界の氷河に関係のあるカラー写真101枚を選び、解説を加えられたものである。また、本書は、2000年に「私の山旅—氷河紀行—」として、熊本地学会誌特別号で出版されたものに、念願とされていたアラスカの資料をこの夏に追加され、101点にして改訂・増補、印刷にされたものである。

掲載された写真は、ツアーで撮られたものも多く、多数の人が目にするのできる観光地ということになる。著者の言によれば、芸術的な写真は望めなかったが、地形や地質など自然環境に着目して、著者でなければ撮らない（撮れない）写真もあると伺っている。しかし、これはご謙遜であって、見ごたえのある写真ばかりである。

写真は、便宜上、アルプスを中心にしたもの、ヒマラヤ・中国・北米（カナダ、アメリカ）とサザンアルプス（マウントクック）を包括したもの、最後に日本アルプスを中心にしたものとに3大別されている。日本には氷河は現存しないが、洪積世の氷河の痕跡は日本アルプスを中心に広く分布しており、それらも収録され、それぞれに著者ならではの解説がつけられている。アクセスが容易ではない南米などの氷河については、掲載されていないが、一人の著者がこれだけの地域をカバーしたものはきわめて珍しく、著者の山と氷河にかける情熱がひしひしと伝わってくる。さらに、各地の5万分の1程度の地形図や利用し得る写真などを参考にしての解説には苦労があったことが伺われる。なお、写真それぞれには、理解するために専門的な解説もついているが、写真集を理解するために、一般的な氷河の説明もつけられている。

著者の山行きは、環境問題のためだけではな

いものの、間接的には地球温暖化問題とのかかわりもあると伺っている。文明社会での燃料消費量の増大による二酸化炭素をはじめとする蓄熱作用のあるガスの放出で、地球温暖化が急速に進み、極地や高山の融水で海水面の上昇をきたし、地球環境に大きな影響を与えようとしている。高緯度地方では氷の厚さが3000mを越すところがあり、南極大陸では3700m、グリーンランドでは3400mに達する所があるという。氷河は、地球上で最も多量の淡水貯蔵所であるが、氷河が後退し、山の景色も変わりつつあると聞く。ただ、アラスカのアンカレジ南のチュガチ山脈から太平洋の沿海部を東南方のグレーシャーベイ国立公園へ伸びる地帯の氷河には、氷河が前進するものもあるそうで、湿度の高い沿海部の氷河には一般の山麓氷河と異なった判断要素が必要らしい。

本写真集には、先に述べた地球温暖化に伴う環境問題などの「総合的な学習」の立場からも教材として活用していただきたいという著者の願いがこめられている。そのため、定価は印刷原価の半分におさえられている。教育関係者をはじめ多くの人に本書をお勧めしたい。

最後に、「旅行者にすぎない著者として、各地や山の名などに誤りがあればお許しいただき、写真についてお尋ねがあれば遠慮なくお聞きいただきたい」との著者からの伝言を記させていただきます。

購入希望の方には、熊本市内有名書店の他、熊本地学会でも取り扱う。

著者連絡先：〒861-2118 熊本市花立 4-13-26

TEL.096-368-5683

発 行 所	
熊 本 地 学 会 誌	No.140
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地 学 研 究 室 内	熊 本 市 地 学 会
TEL096-344-2111	振替 01960-2-5359